

● 狂言
酖薑 すはじみ

茂山千三郎

● 仕舞
竹生鳥 たけなま

森本 哲郎

● 巴 ともえ

今村 宮子

● 胡蝶 こちょう

松浦信郎

● 能 山姥

今村 一夫

やまんば

「百萬山姥」と呼ばれる遊女が
善光寺に詣る道中、
自分こそが真の山姥であると
告げる一人の女に出会う...

平成25年1月6日(日) 1時開演

1月のたにまぢ能



● 能 花月

山本 順之

かげつ

息子と生き別れ
出家した僧侶が
清水寺に詣ると、
花月という少年が現れ
舞や小歌に興じるが...

85th
山本能楽堂
Since 1928

国登録有形文化財
山本能楽堂
公式ホームページを
ご覧ください
<http://www.noh-theater.com/>

■主催/公益財団法人 山本能楽堂 ■後援/大阪府・大阪市・財団法人 大阪21世紀協会

入場券 ●一般券 5,500円 ●学生券 3,000円 繰り割引券(3回分) ●一般券 15,000円 電子チケットぴあ pia.jp/t (Pコード 424-145) 0570-02-9999
お問い合わせ 山本能楽堂/Tel. 06-6943-9454 Fax. 06-6942-5744 公式ホームページ <http://noh-theater.com/> e-mail info@noh-theater.com

※山本能楽堂は平成18年12月に国登録文化財に指定されました。

午後1時始

能「花月」

シテ(花月) 山本 順之
ワキ(旅僧) 森本 幸治
アイ(清水寺門前ノ者) 松本 薫

笛 左鴻 雅義
小鼓 荒木 賀光
大鼓 辻 芳昭

後見 松浦信一郎
森本 哲郎

地謡 山本 章弘
波多野 晋
山本 博通
今村 一夫
林本 大
山田 秀子
朝原 広基
山本 麗見



山本 順之

●あらすじ

七歳の子が行方不明になってしまい、それを契機に出家した僧侶(ワキ)が都にのぼり、清水寺に参詣する。案内を頼んだ門前の者(アイ)から、花月という少年(シテ)が面白く舞う事を知り、呼び出す。花月は自らの名前の由来を語り、門前の者と共に恋の小歌を楽しみ、花の枝の鶯を弓で狙ったり、また僧侶の所望で清水寺縁起の曲舞を舞ったりして興じる。僧侶が花月をよく見ると、果たして成長した我が子であった。再会した父僧と共に修行の旅に出ることを決めた花月は、門前の者との別れに鞆鼓を打ち、幼いころに天狗にさらわれて諸国の山々を廻った思い出を物語るのだった。

あらすじとしては親子再会の物語ですが、むしろ花月演じる様々な芸が曲のメインとなっています。作者は分かりませんが、世阿弥時代から存在した古作の能とされています。特にシテがアイと共に謡う「来し方より今の世までも絶えぬものは恋といへる曲者」という小歌は、もともと能でない芸能の歌詞を能の拍子に当てはめたものらしく、特殊な拍子扱いとなっています。

狂言「酢薑」

シテ(酢売り) 茂山千三郎
アド(薑売り) 茂山 童司

後見 鈴木 実

●あらすじ

和泉の堺の酢売りと摂津の薑売りが都へ行商の途中に出会いますが、互いに商売物の由緒正しきを語りますが決着が付きません。都へ上る道すがら秀句(洒落)を言い合って勝負をつける事にしますが…

「薑(はじかみ)」は生姜や山椒をさす言葉です。薑が辛い事から、薑売りはその縁で「カラ」の音を織り込んで由緒を語り、秀句を言います。酢売りの方も「ス」の音を織り込み心酔します。非常に洒落た大阪ゆかりの曲です。

仕舞「竹生鳥」 森本 哲郎

地謡 山本 順之

「巴」 今村 宮子

山本 博通 河村 栄重 山本 麗見

「胡蝶」 松浦信一郎

休憩10分

能「山姥」

前シテ(女) 今村 一夫
後シテ(山姥) 林本 大
ツレ(百萬山姥) 福王 知登
ワキ(従者) 是川 正彦
ワキツレ(供人) 喜多 雅人
ワキツレ(〇) 茂山千三郎
アイ(里人)

笛 齊藤 敦
小鼓 成田 達志
大鼓 辻 雅之
太鼓 上田 悟

後見 波多野 晋
山本 博通

地謡 松浦信一郎
河村 栄重
今村 宮子
森本 哲郎
前田 和子
高橋 京子
山下 麻乃
朝原 広基



今村 一夫

●あらすじ

都で「山姥の山廻り」の曲舞で評判となり「百万山姥」と呼ばれた遊女(ツレ)が、従者(ワキ・ワキツレ)を引き連れて善光寺詣を志す。善光寺に至る難所・上路越にかかると俄かに日が暮れる。そこに一人の女(前シテ)が現れ、宿を貸す。女は遊女に山廻りの曲舞を所望し、自分こそは真の山姥であると明かし、自分のことを芸にして名を得た遊女に恨み事を言った後、月夜に誦えば自分の真の姿を見せると告げて姿を消した。(中入)

夜も更け月が冴えわたると、真の山姥(後シテ)が現れた。山姥は遊女を促し、自らも深山の風景や山姥の境涯を謡い舞う。さらに四季折々の雪月花をたずねて山廻りする様を見せる内に、山姥の姿は幽谷の中に消え失せた。

幽谷の鬼気迫る光景の中で、「善悪不二、何をか恨み何をか喜ばんや」「邪正一如と見る時は色即是空その俤に」などの禪の思想が、その権化たる山姥によって説かれるという不思議な魅力を称えた作品です。

午後5時頃終了

公益財団法人 山本能楽堂 賛助会員募集のお知らせ

山本能楽堂は大阪市中央区徳井町(谷町4丁目)に、山本家初代 山本 博之が、昭和2年に建設しました。その後戦火に逢い、一度焼失しましたが、昭和25年に再建し現在に至っております。そしてこの度、更なる能楽の普及・発展をめざし、公益財団法人 山本能楽堂を発足致しました。それに伴い、さらに広く皆様方に能楽の楽しさに触れ魅力を感じて頂くため、平成19年度より賛助会員を募集させて頂く事になりました。

ご入会頂きますと「たにまち能(山本定期能)」のご招待、各種公演の御案内、山本能楽堂のご使用料金の割引等の特典を受けて頂く事ができます。お一人でも多くの方にご支援頂き、能楽の普及にお力添えを賜りますれば、何より有難く、御賛同賜ります様よろしくお願ひ申し上げます。

	個人会員 A	個人会員 B	法人会員
年会費1口	10,000円	30,000円	100,000円
ご招待(一口あたり)	たにまち能招待券2枚(通常11,000円)	たにまち能招待券6枚(通常33,000円)	たにまち能招待券などもしくは舞台使用料を会費分値引
その他の特典	●各種公演の御案内を無料送付 ●会員様だけのイベントに参加		

- 招待券はご本人様以外でもご利用いただけます。
- 法人会員にご入会頂いた方には、税制上の優遇があります。詳細は能楽堂までお問い合わせ下さい。

ご入会頂きます方は、下記お問い合わせ先までおたずね下さいませ。後日、(公財)山本能楽堂より書類をお送りさせていただきます。

- 通常「たにまち能」は年間6回の公演で、1回につき2種類の能と狂言の構成になっております(1回は素謡会)1回券 5,500円
- 招待券は1月から12月までの公演でお使いできます。
- ※素謡会とは…「能」の要素には謡(歌)と舞があります。お囃子や舞、動き、装束などを除いた謡の部分をお聞かせいただくもので、謡の美しさや妙味を楽しんでいただけます。

主催/公益財団法人 山本能楽堂

■後援/大阪府・大阪市・財団法人 大阪21世紀協会

山本能楽堂 / Tel. 06-6943-9454 Fax. 06-6942-5744

e-mail info@noh-theater.com

山本能楽堂のホームページ / http://www.noh-theater.com/



地下鉄谷町4丁目④番出口より、北に一筋目の角を左へ100m、南側(徒歩2分)

次回のたにまち能

平成25年4月6日(土)13時開演
於 山本能楽堂

- 能 籠太鼓 松浦信一郎
- 狂言 魚説経 善竹忠一郎
- 能 杜若 恋之舞 山本 章弘

※許可なき撮影、録音は著作権、肖像権などに抵触いたしますので、ご遠慮下さいますようお願い申し上げます。